

研究開発3 国内グローバル研修 ―英語宿泊研修―

1 目的と期待される効果

(1) 目的

国内で海外を体験できる研修施設において、グローバルな社会問題に関する研修を行うことにより多様な価値観について理解しつつ自己の研究を深めるとともに、英語による自己の考えの発信力、コミュニケーション能力を高める。

(2) 期待される効果

グローバル社会で期待されているグローバル・リーダーの役割についての理解と意識が高まることが期待できる。

2 内容

国内の宿泊施設において、3～5日間程度、まったく日本語を使わず、英語のみで生活する。この間に他国の歴史や伝統文化に触れ、異文化理解を深めるとともに、グローバル社会の課題について考察する。

3 実施方法

普通科の希望者を対象に3～5日間の宿泊研修を行う。実施後、活動報告書及び活動の記録等を基に学校設定科目「GLアクティブ」の評価とする。

4 検証評価方法

研修終了後にアンケートを実施し、その結果を取り入れ、検証する。

5 昨年度を踏まえた改善点

昨年度に引き続き、参加希望者全員が参加できるよう実施時期、施設の受け入れ体制との調整をし、昨年度の85名を超える91名の生徒が参加した。また、昨年度の参加生徒に好評であった、クリティカル・シンキングのレッスンを増やし、内容のさらなる充実を図った。

6 実施内容

「英語宿泊研修」

(1) 実施日 令和元年9月30日(月)～10月2日(水)(2泊3日)

(2) 場 所 体験型国際研修センター British Hills (ブリティッシュヒルズ)

(3) 対 象 普通科1年希望者91名

(4) 目 標 英国での生活を疑似体験しながら英語の実力を高めるとともに、英国の文化や伝統に触れ、異文化を体感し、課題研究の一助とする。

(5) 内 容

ア 令和元年10月30日(月)【第1日】

Lesson 1 Survival English (16:00～17:30)

研修中の生活の中で使う基本的な英語を学び、アクティビティを通して英語を使う練習をした。

Table Manners in English (18:00～)

テーブルマナーについて映像を見ながら学び、その後実践した。

イ 令和元年10月1日(火)【第2日】

Lesson 2 Critical Thinking (RAVEN) 1 (9:00～10:30)

RAVEN というメソッドに則り、架空の記事を使って、クリティカル・シンキングを学ぶ。

Lesson 3 Critical Thinking (RAVEN) 2 (11:00～12:30)

前の授業に引き続き、RAVEN メソッドに則った言語活動を行う。

Lesson 4 Presentation Skill 1 (14:00～15:30)

5部屋に分かれ、5部屋に分かれ、講師の説明とビデオからプレゼンテーションの良い例と悪い例について学ぶ。その後各グループに分かれて、準備してきた自分達のプレゼンテーションの練習を行い、講師からのフィードバックを受け、さらに練習を繰り返す。

各グループでプレゼンテーションの準備と練習 (15:30～18:00)

ウ 平成30年10月3日(日)【第3日】

Lesson 5 Presentation Skill 2 (9:00～10:30)

5部屋に分かれ、英語でのプレゼンテーションを行った。講師の先生や他のグループから英語で質問を受け、それに答える。表現方法や応答の仕方など講師の先生からアドバイスをもらった。プレゼンテーションの手法を身に付けるとともに、他国の考え方を知ることができ、課題研究を進める上で有効であった。

Lesson 6 British Culture(11:00～12:30)

クリケット・チェス・スヌーカー・ボードゲーム・ボランティア英会話講座の5クラスに分かれ、それぞれの講師からやり方とその文化的背景を学ぶとともに体験した。

7 アンケート結果 (91名)

項 目	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない
この研修に参加して良かった。	95%	2%	0%	3%
積極的に英語でコミュニケーションをとることができた。	52%	44%	3%	1%
プレゼンテーションのスキルを学ぶのに役立った。	84%	14%	0%	2%
ディスカッションのスキルを学ぶのに役立った。	60%	35%	4%	1%

記述回答（抜粋）

- プレゼンテーションで自分が当たり前のように使っていた表現について、説明を求められることが多く、特に日本の文化や生活に関わる語彙表現は、他国の人にもわかるように説明する習慣が大事であるとわかった。
- イギリスの文化について学ぶ良い機会になったと共に、自国の文化・伝統についてもっと興味を持とうと思った。
- プレゼンテーションでのアイコンタクトやジェスチャーの効果的な使い方、自分の意見に説得力を持たせるプレゼンの作り方について、とても詳しく学ぶことができ有意義だった。
- プレゼンテーションの導入の部分や話のつなぎ方を学び、とてもためになった。
- プレゼンテーションについて、講師の先生が一人一人に良かった点を伝えてくれたので自信につなげることができ、また自分の課題もよくわかった。
- 情報の真偽について、誰が利益を得るのか、どのような印象を持つのかなどを吟味しながらグループで考え発表する活動が有意義であった。多角的な視野を持つこと、ニュースについて、本当にそれが正しいのかを疑う姿勢を持つことの大切さを知った。
- レッスン中に先生方に” Why?” と聞かれることが多く、それに対してしっかりした理由を答えることができなかった。海外で自分の考えや理由を述べる重要性を感じた。これからは家でニュースを視る際にも、そのニュースに対して自分の考えを持つなど、普段の生活から自分の考えを深められるようにしたい。
- プレゼンテーションに関していろいろ課題が見つかってよかった。
- 伝えたいことが、自分の英語力、語彙力のなさでうまく伝えられないもどかしさを実感し、改めて英語を勉強する大切さを知ることができた。
- 英語を聞き取れない、わからないこともあったが、グループ活動だったので友達と協力して理解することができた。また自分のリスニングのレベルがわかり、英語学習へのモチベーションになった。
- 次第に日常の英語が自然に出てきたり、講師の先生の英語のスピードに慣れてきて、このような経験が必要だと思った。
- 普段の授業から、積極的に他の人とコミュニケーションをとって英語力を上げたい。
- 英語を勉強する意欲が高まり、海外へ行ってみたいと強く感じた。

8 成果と課題

英国を完全に再現した環境の中で、英国文化に触れ、英語を使う生活を体験し、1日目はまだ自分から積極的に発表したり質問したりすることに躊躇していた生徒も、2日目になるとかなり積極的に自ら発言するようになってきた。今年は事前に各グループでプレゼン準備をしっかりと行い、ポスターも仕上げていったので、現地ではそれを基に、プレゼンのスキルを学び、講師から適切なアドバイスをもらい、最終日にはほぼ完璧なプレゼンテーションをすることができた。アンケートにもあるように、プレゼンテーションやディスカッションなどで必要なスキルや説明する能力、異文化と共に自国の伝統文化に対する興味・関心と知識の必要性について考える良い機会となった。また、英語でコミュニケーションをとることに関するモチベーションも高まったようである。

課題は昨年に引き続き、英語でコミュニケーションを取る際に、クイックレスポンスを苦手とする生徒が多いことである。予想していなかった質問に関しては、すぐに英語で対応できない生徒が多い。しかし、これは多くの経験を積むことで身につける能力でもあり、今回のような機会を多く提供できる事が重要である。

参加生徒は、研修で学んだことを、授業やSGH課題研究における発表場面で生かそうとして言う様子が見られ、研修の目的は達成された。